

家庭園芸、ちょっとした注意で楽しく安全に

観賞用植物などを**誤って**食べたことによる食中毒が多発しています！

スイセン類



有毒部位：植物全体

中毒症状：食後30分以内で、吐き気、おう吐、頭痛など

何と間違えやすい？

- 葉をニラと誤って食べてしまう例が多発しています。



見分けるポイントは
「におい」

ニラの葉には特有の臭いがあり、スイセンの葉には臭いがありません。

- 球根(鱗茎)もノビルやタマネギと間違えやすいので注意してください。

植えるときの注意点

・食べる目的で植える場合は、食用の植物が確認してから植えましょう。

・食用植物と観賞用植物は並べて植えず、明確に区分けして、植えましょう。



・種が飛んで来たり、昨年以前に植えたものが再び生えてくることもあるので、どこに何を植えたか、必ずネームプレートをつけましょう。

・何か植えたら家族にも伝えましょう。



植えたものを食べる時、人にあげるときの注意点



・食用として植えた覚えのない植物は食べない。人にあげない。



・植物の種類がわからない、何か変だな？と思ったら、食べずに、園芸店等の専門家に確認しましょう。



市民農園や庭などに生えた植物を食べて、体調が悪くなったら
すぐに医師の診察を受けましょう！

原因と思われる植物が残っている場合は、受診の際、持参すると治療の参考となります。

観賞用植物などを誤って食べたことによる食中毒が多発しています！

イヌサフラン (コルチカム)



食べられません！

見分けるポイントは
「におい」と「葉の枚数」

- ・ギョウジャニンニクの芽生えには特有のニンニク臭がありますが、イヌサフランの芽生えには臭いがありません。
- ・ギョウジャニンニクの芽は、葉が1～2枚ですが、イヌサフランの芽は、葉が多数重なり合っています。

- 球根(鱗茎)をジャガイモやミョウガと間違えて食べた中毒事例もあります。「サフラン」の仲間？…名前や花の見た目は似ていますが、「サフラン」とは違う種類です。

有毒部位:植物全体
中毒症状:おう吐、下痢、皮膚の知覚減退、
呼吸困難、重症の場合は死亡

何と間違えやすい？

- 芽、葉をギョウジャニンニクやギボウシと誤って食べてしまう例が発生しています。



ギョウジャニンニクの芽生え



イヌサフランの芽生え

有毒



ギョウジャニンニクの葉



イヌサフランの葉

有毒

チョウセンアサガオ類 (ダチュラ、エンジェルストランペットなど)



食べられません！

植えていなくても、飛んできた種から生えることがあります。

- 蕾をオクラと、種子をゴマと間違えて食べた中毒事例もあります。

有毒部位:植物全体
中毒症状:口の渇き、おう吐、瞳孔の散大、
呼吸の乱れ、意識混濁など

何と間違えやすい？

- 根をゴボウと誤って食べてしまう例が発生しています。



ゴボウの根

見分けるポイントは
「根のもろさ」

ゴボウの根は繊維質ですが、チョウセンアサガオの根はもろく、折れやすいなどの違いがあります。



チョウセンアサガオの根

有毒

まだまだあります身近な有毒植物。詳しくは…

東京都の食品安全情報サイト「食品衛生の窓」

食品衛生の窓

検索

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/>